

2012/13シーズン
A型インフルエンザ罹患者の
2014/15シーズン再罹患の実態調査
[2011/12シーズン
A型インフルエンザ罹患者との比較検討]

前橋協立病院 小児科

○矢島昭彦

新里祐太郎 佐藤絵里子 齋藤耕一郎 深澤尚伊

第48回日本小児感染症学会 総会・学術集会 COI 開示

筆頭演者：矢島 昭彦

共同演者：新里祐太郎 佐藤絵里子 齋藤耕一郎 深澤尚伊

今回の演題に関連して、
開示すべきCOIはありません。

はじめに

2011/12シーズンAH3インフルエンザ罹患者は、2014/15シーズンに18%再罹患したことが判明した。翌2012/13シーズンも2011/12シーズンと抗原性の類似したAH3がA型インフルエンザ流行の中心を占めた。

そこで2012/13シーズンA型罹患者の2014/15シーズンの再罹患の実態を調査し、2011/12シーズン罹患者との比較検討を行った。

調査対象

2012/13シーズンに当科で診療した迅速診断キットA型陽性者全291人中、2014/15シーズンの調査ができた221人(75.9%)を対象とした。

尚、迅速診断キットはクイックチェイサー[®] FluA,B(ミズホメディー)を用いた。

調査方法

- 2012/13シーズンA型陽性は96%がAH3(群馬県衛生環境研究所HPより)であったので、対象の221人全員をAH3とみなして調査した。
- また、2014/15シーズンA型亜型も100%AH3(同HPより)であったので、このシーズンのA型陽性も全員AH3とみなした。
- 2014/15シーズン終了後、カルテチェック、保護者への直接または電話による聞き取りにて、A型インフルエンザ罹患の有無とインフルエンザワクチン接種の有無を確認した。

【結果1】

2012/13シーズンA型陽性者の
2014/15シーズン再罹患率

2012/13 シーズン A型陽性者	2014/15 シーズン A型陽性者	再罹患率
221人	20人	9.0%

【結果2】

2012/13シーズン罹患年齢と 2014/15シーズン再罹患との関連

2012/13 シーズン 罹患年齢	2014/15 シーズン 再罹患患者
0～6歳 (低年齢群)	17人 (85.0%)
7～14歳 (高年齢群)	3人 (15.0%)

2011/12シーズン罹患患者と同様に
再罹患は低年齢群を中心に発生

【結果3】

2012/13シーズン罹患年齢と 2014/15シーズン再罹患率との関連

2012/13 シーズン 罹患年齢	2012/13 シーズン 罹患人数	2014/15 シーズン 再罹患患者数	再罹患率
0～6歳 (低年齢群)	137人	17人	12.4%
7～14歳 (高年齢群)	84人	3人	3.6%

2011/12シーズン罹患患者と同様に
低年齢群の再罹患率は
高年齢群に比較し3.4倍高い($p<0.05$)

【結果4】

2014/15シーズンA型再罹患率の 罹患シーズンによる比較

罹患シーズン 罹患年齢	2011/12 ↓ 2014/15 再罹患率	2012/13 ↓ 2014/15 再罹患率
0～14歳 (全年齢)	18%	9.0% (P<0.05)
0～6歳 (低年齢群)	24.6%	12.4% (P<0.05)
7～14歳 (高年齢群)	5.7%	3.6%

【結果5】

2014/15シーズン

インフルエンザワクチン接種状況と再罹患

罹患シーズン	ワクチン 接種	人数	2014/15シーズン再罹患
2011/12 (100人)	あり	10人 10%	1人 10%
	なし	90人 90%	17人 18.9%
2012/13 (221人)	あり	43人 19.5%	2人 4.7%
	なし	178人 80.5%	18人 10.1%

インフルエンザワクチン接種率は2倍に増加していたが、
ワクチン接種の有無に関わりなく再罹患率は半減していた。

Take Home Message

AH3インフルエンザ再罹患率は、
再罹患間隔が1シーズン短くなる
だけで半減する。